

令和8年度 第3回まちづくりふれあい懇談会記録書

- 1 日 時 令和8年7月30日（木）午後6時30分～7時50分（80分）
- 2 場 所 呼人コミュニティセンター 多目的ホール
- 3 出席者 一般出席者 10人
網走市出席者 10人（市長、教育長、
企画総務部長、建設港湾部長、
市民環境部長、観光商工部長、学校教育部長、
学校教育課参事、企画調整課長、広報広聴係長）
町連等出席者 4人（会長、副会長、理事、社会福祉協議会職員）
計 24人
- 4 議事進行 理事
- 5 進行記録
18:30 開会
18:31 市長あいさつ
18:34 町連副会長あいさつ
18:36 テーマ(1)小中学校の適正規模・適正配置の検討について
19:08 テーマ(2)太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する
ガイドラインの策定について
19:27 テーマ(3)どこバスについて
19:38 その他
19:48 市長あいさつ
19:50 閉会

【テーマ（１）小中学校の適正規模・適正配置の検討について】

▼参加者

学校再編検討総合協議会のメンバーになり、資料から色々なことが見えてきた。

去年の出生数は140名で、このままいくと35人学級の4クラス相当になる。

学校はまちづくりの中心で、学校があって地域があるものと思っている。あるいは、地域があって学校ができたという考え方もあるかもしれない。

呼人では小規模特認校として1年間運営し、少しずつ特認校の良さが認知されてきた。小学1年生から中学3年生まで和気あいあいやっていることもあり、市街地在住の子どもも含めて生徒が増えている。

今回、小中学校は市内全域で統合する考えが出されているが、切磋琢磨をして大きな学校を作るのがいいのか、小規模特認校のような学校もいいよね、となるのか、そこは議論の余地があるように思う。

学校再編検討協議会の委員長である、東京農大の千葉学部長が「少子化は大変。大学生も4割減る」と言っていた。

子どもは少なくなるが、出生数が多いとなれば「この環境が良いから」と逆に考えることもできる。

少子高齢化で、子育て層が少なくなり、高齢化が進み、網走の人口が3万ちょっとと少なくなっている。

自分が24年前に網走に来て以降、下宿をやっており、当時、子供を2人連れてきたが、大学進学後に就職をし、今は網走にいない。網走には就職する産業がなく、ここに住んで、結婚して子供を持つことがなかなか難しいと思っている。

出生数が100人を切る時代も来ると思うし、そのときにはまち自体も縮小してくることを考えると、「まちづくりってどうなんだろう」と考えてしまうし、消滅都市に近づいているのでは、ということも考える。

子どもがいない、お年寄り2人だけとなると「仕事がなくなる」「大学がなくなる」「ここにいる必要がない」となると、網走が実家でない人はどこかに行ってしまう、ということにもなり、まち自体が縮小し、学校の縮小どころではなくなるということ、学校再編の話から感じている。

学校再編については、学校の数や体制等、色々な考えがあるようだが、子どもたちに良い教育をできるかという観点で考えるべき。

現実的にコストもかかる話なので、30年経った校舎を使うの

か、直していくのか、どこかに大きい学校を建てた方がいいのでは、と考えたときに、統合に持っていかなざるを得ない考える人も少なくないだろうが、この問題については、地域の人と共にどう合意を積み上げながら、最終目的である全3校体制に持っていくのか、丁寧な議論が必要と思っている。

市長がせっかく来ていただいているので、若者や子育て世代に、どういうまちづくりをしているのか、若者に希望を持てるようなまちにできるのか、まちづくりの観点から市長にお聞きしたい。

(市長)

昭和60年、61年の市議会の記録で、当時、東京農業大学オホーツクキャンパスの誘致や、呼人スポーツトレーニングフィールドの整備を進める頃、関連する財政問題についての議論がされていたようだ。

議論の1つに高規格道路があり、ルートに網走が予定に入っていない「道路が通らないと北見に全部もっていかれる」のような話もあった。

若者の人づくり、あるいはまちづくりをどうするのかというお話については、2015年に「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」ができたが、自分はこれは逆だと思っており、「しごと・ひと・まち地方創生総合戦略」だったのではないかと考えている。

街を作るには人がいなきゃいけないし、人がいるには仕事がいなきゃいけない。街があって人があって仕事がある、ではなく、仕事があって人がいて、街ができるものと思うので、まずは「仕事」を地域で確保し、市として発展をさせていくことが、人につながり、まちづくりになっていると痛感している。

まちづくりを考えるには、まずは仕事を前面に持ってくることで、強みである農業、そして流氷などの関係で苦労しているが、漁業の問題もしっかりと仕事として取り組んでいき、それに派生する仕事を確保し、人を集め、まちづくりをしていく、という順番だと思っている。

今年、約400軒ある網走の農家で、5軒の農家が米作りを始めている。今年の面積だけでも5ヘクタールほど米ができており、来年は10ヘクタール、再来年以降は20ヘクタール程になる見込みで、生産意欲を持つ農家さんが出てきている。

米ができると今までと違う仕事がうまれる。

網走にできる酒蔵で、お酒の原料米を農家が作り、日本酒の原料に提供していくということにもつながり、酒蔵で働く方も含め、仕事をしっかり作ることによって人が来る、そして街ができてくると思っている。

そうした個々の仕事の強みを横展開して仕事を確保し、人を作り、そしてまた街を作り、「しごと、ひと、まち」という形のまちづくりをやっていきたいと考えている。

▼参加者

市で、太陽光発電があちこちで行われているが、データセンターを作るなどの計画はないのか？

(市長)

データセンターやAIに電気を、となると、北海道の電力、泊発電所の3倍必要だと言われており、自然エネルギーで対応できるかという懸念がある。

カーボンニュートラルの観点でいけば、再生可能エネルギーを否定するものではなく、推進する立場だが、環境問題もあり、住民の皆様に理解を得た上でなければ進められない。

バイオマス発電所が呼人で稼働しているが、地域に必要な電力確保との兼ね合いもあり、また、送電線がなく電気が送れない課題もあるため、データセンターの誘致は難しい現状。

余談だが、函館で風力発電施設が地域住民の合意が得られず、できなかったことがあった。

住民の皆さんの理解を得てからでないと、地域の発展というのは難しい時代になったと思っている。

▼参加者

個人的には、ニーズがあれば学校を残してほしい、まとめないでもいいのでは、と思っている。

最終的に入学する生徒がいなくなってしまう場合は考えてもいいかと思うが、古い学校であっても、学びたい子供たちや家庭があれば、郊外の小規模学校はぜひ残していただきたい。

自分は郊外の小学校で仕事をしているが、子どもたちは「お父さんの仕事を継ぎたい」との思いで毎日学校に来ている。

郊外地区に住み続け、一次産業を引き継いでいき、地域で頑張る気持ちでいるので、そういう意味でも学校は残していただきたい。

郊外の学校それぞれで、東小と呼人小と一緒に修学旅行に行くなど、小さい学校どうしで補い合えるところはある、先生方も頑張って小規模学校の課題に取り組んでいるので、学校は残していただきたい。

【テーマ（２）太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する
ガイドラインの策定について】

▼参加者	売電をしたい業者が最近来るが、そうしたケースについて、規制や審査をするということか。
（市民環境部長）	これから発電施設を整備するケースが対象。
▼参加者	24年前に網走に来た当時、太陽光発電パネルをつけた。 当時は電気を高く買ってもらえたが、価格も変わっており、最近では、本州で蓄電機能を施設に備えているが、送電線が保たず、電気を買えない、買取りしない、と規制がかかっている話も聞いた。 事業をやめる懸念がある中で、これから整備するケースだけでなく、今、事業展開中のケースについても、施設が放置されることがないように規制について考えていただきたい。 蓄電についても、窓に貼れる家庭用パネルも出てきたので、カーボンニュートラル推進の観点からも、太陽光発電の普及、補助について網走で推奨していただければと思う。
（市民環境部長）	施設の放置が懸念されているが、固定価格買取制度を適用し、取り壊しや廃棄費用を担保できるような仕組みにすることを考えている。 小さい施設で、固定価格買取制度を使っていない場合は、条例の中で、既存事業者の方に対して廃棄費用をどう確保するか of 計画を届出いただき、必要に応じて指導もする予定。 今後の建設予定は、費用を積み立てるよう指導し、事業撤退時の施設放置を防ぐ考え。 蓄電については、太陽光発電と一体となった蓄電施設は、まだ市内ではないと思っている。 蓄電施設単体のものは、市内で2箇所ほど計画が出てきており、太陽光蓄電の活用については、関係情報を収集しながら検討を進める。
▼参加者	全学校ではないが、小中学校に蓄電施設があるのでは。

(企画総務部長)

潮見小学校の反対側にソーラーパネルがあり、1200Kwhの蓄電池を備え付けている。

災害で停電となった時に、ここの電気を使い、潮見コミセンと潮見小学校に送電し、電気が使える体制をとっている。

夜に蓄電した電気を使うので、晴れの日が続けば、さらに電気を貯められる。

潮見小学校が電気ストーブのため、冬は暖房で相当電力を消費することが懸念されるが、灯油ストーブも確保しているので、いざという時にはそういうものを使いたい。

また、東京農業大学キャンパスで蓄電池を整備しており、いざという時に、農大体育館と事務室の一部の電気として使い、大学の機能を維持しつつ、体育館を大型の避難所として使用することを進めている。

▼参加者

車で市内を走っていると、時々、壊れた太陽光パネルを見かける。出火の心配もあるので、そういうケースにも対応できる条例としていただきたい。

また、施設の耐用年数があって、電気設備は10年ちょっと超えたら交換という話もあるので、パネルや電源のケーブルの定期交換も含めて条例化していただきたい。

(市民環境部長)

設置だけではなくて適正な管理も求めていきたい。

【テーマ（３）どこバスについて】

▼参加者

お通夜や告別式、朝の通院の時間でも市内に行けるように、夕方４時以降や午前９時前にも利用できるよう、利用時間を増やしてほしい。

(観光商工部長)

どこバス導入の経緯として、朝と夕方は通勤・通学で多くの利用者が路線バスに乗るため、どこバスのような車両では乗客を運べない。逆に日中は、路線バスの利用者が少ないので、どこバスの導入に至った。

時間帯については、運転手の兼ね合いもあり、朝夕は路線バスの運転手が必要なこと、日中は運転手がどこバスに乗り換えて運行している実態があるため、車両繰り、人繰りの問題から、朝夕の運行は難しい。

また、タクシー等の他の交通機関との兼ね合いもあり、時間帯や料金について、地域公共交通活性化協議会で協議し、合意を得た上で運輸局に届けて認可を受けている。変更の際には、協議会での合意も必要となるのでご理解いただきたい。

▼参加者	知り合いから聞いた話で、自分は直接利用したことはないが、どこバスの車両で、乗降時にステップがもう1つあると乗り降りしやすいと聞いた。 バス会社の関係かもしれないが、そうした車両が配置・配備されるとありがたいと思う。
(観光商工部長)	バス会社に伝えて、今後、検討する。

【その他】

▼参加者	呼人キャンプ場のトイレは市のものか？ トイレが洋式ではなく和式で利用しづらい。お年寄りや外国人も来ているので、洋式にできないか。
(観光商工部長)	キャンプ場は観光課の所管であり、お話も伺っている。 お約束はできないが、来年度に向けて検討させていただきたい。
▼参加者	去年の懇談会で、頑丈なゴミステーション設置について要望し、検討したいとの回答だった。 言い方が悪いかもしれないが、検討するということは、駄目だったものと捉えている。 ゴミを埋め立て用の赤い袋に入れると何でも持ってってくれる現状もあるので、その問題も考えてほしい。 昨年秋に呼人で熊の目撃情報があったが、農大の新入生に熊が出るかを聞かれる。そういう地域だと思われる。 家族がAI関係のプログラマーを在宅勤務でやっている。 「東京は40度で大変」「網走は涼しい」等、過ごしやすい環境を売り出せば、大きなものや設備がなくても、網走に企業誘致できるのではないかとも思う。 若者に住み続けていただける、活気ある街を作っていただきたいと思っているので、農大や米作の話も含めて、まちづくりを頑張りたい。
(市民環境部長)	昨年、ゴミステーションのお話をいただいた。 当時は制度がなかったので検討と回答したが、今年度、鳥獣害、主にキツネの対策をしたステーションの購入補助を行うこととし、補助要綱を取りまとめている。

間もなくお知らせできるので、要望があればご相談いただきたい。

埋め立て袋で回収してしまう件については、ご指摘の通りのところもある。

基本的には違反シールを貼るが、そのままにはできないので、最終的には収集してしまう。

引き続き理解が得られるように努めていくのと、今後、広域で焼却施設の整備を進めていく際には、より分かりやすいよう分別にも努めていきたい。

(市長)

農大には1640名ほど学生がおり、「東京農業大学オホーツクキャンパス」、「秋田公立美術大学」、大分にある「立命館アジア太平洋大学」の3つが、地方の大学で定員割れをしていない。

このオホーツクキャンパスで学生の話を見ると、「北海道で農業が学べる」ということでお越しいただいていると聞いている。これは、実学農業、フィールドがしっかりと維持発展をしているからこそ、学生が集まってくるものだと思っているので、しっかり産業と連携しながら、大学の教育というものの高めていき、大学の存置をしっかりと守っていくよう取り組んでいきたい。

中学生が網走の桂陽高校と南ヶ丘高校に進学しているが、中学校卒業生のうち80名が網走市外に進学し、一方で83名の生徒が網走以外から網走市内の高校に入学している。

その他、日本体育大学附属支援学校には、現在105名、1学年35から40名の生徒が学んでいる。

特色ある学校をすることで、全国からどのように若い人材を確保してくるのか、そして、農大とどのように繋げていくのかといったことを取り組んでいるところであり、これからもそうした議論を踏まえて、深化させていきたいと思っている。